



発行所
埼玉県立不動岡
高等学校学友会
加須市不動岡
1-7-45
電話 0480(61)0140

「新時代にふさわしい リーダーへ」

学友会会長 大橋 良一(78回生)



秋の深まりを感じ
この頃、不動
岡高校学友会会員
の皆様におかれま
しては、いかがお

過ごしてでしょうか。

さて、新型コロナウイルス感染症
が未だ世界的猛威をふるう中、感染
拡大を予防する「新しい生活様式」
の下、様々な制限や自粛をする生活
が余儀なくされるなど、会員の皆様
には大変な御苦労をなされているこ
とと存じます。

ワクチンの開発やワクチン接種率
の向上に伴い、新型コロナウイルス
の終息を期待しておりましたが、も
う少し時間がかかるようでありま
すので、学友会最大の事業である年次
総会は、誠に残念ながら対面での開
催は中止させていただくこととなり
ました。

つきましては、本年度もWEB開
催とし、議題については、総会資料
をホームページで確認後、承認して
いただきたいと思います。
さて、会員の中からの嬉しいニュ

ースとして、本校64回生 布施 浄慧
氏が真言宗智山派管長・総本山智積
院化主となりました。また、本校
101回生 伊呂原 隆氏が上智大学
副学長に就任されました。お二人と
も学友会総会での慶祝表彰に推薦さ
れております。

今後、学友会総会における記念講
演等について、これらの方々をはじめ
め教育界のみならず、政治経済各方
面で活躍されている方々に依頼した
いと考えておりますので、不動岡高
校学友会員の皆様には幅広い情報網
でご推薦いただきたいと存じます。

企業経営者としてのあり方、また、
一人の人間としてのあり方として今
改めて注目されております没後90年
になる 澁澤榮一翁は、不動岡高校に
二度来校され、「質実剛健」の文字
を揮毫されました。他にも「自然的
な逆境は天命と受け止め、安らかに
勉学に励め」という言葉を残されて
おり、一世紀の時を経て偉人の志を
実感しております。

在校生におかれましては、澁澤翁
の志を受け止め、勉学に励みながら
粘り強く未来を切り拓き、時代の変
化に適切に対応できる新時代にふさ
わしいリーダーとして、それぞれの
場において活躍されることを期待し
ております。

私も、市政を預かる立場として、
新型コロナウイルス感染症対策につ
いては、市民の皆様の健康と安全を
最優先にワクチン接種をはじめ「感
染予防」・「生活支援」・「事業者支
援」の3つの柱により、国や関係機
関と連携し、迅速、適切及び一体的
にそして早期の収束に向けて取り組
んでいくところでです。

最後になりましたが、会員の皆様
、在校生、保護者の皆様、そして教職
員の皆様、お互い心を合わせ、この
厳しい局面を乗り越えていきましょ
う。私も学友会会長として、微力な
がら全力で取り組んでまいります。

そして、皆様方それぞれが、お身
体を大切にされ、新型コロナウイルス
スに負けず、健康・健全な毎日を送
られますようお祈り申し上げます。

着任の御挨拶

校長 豊田 清明



埼玉県立不動岡
高等学校学友会の
皆様には、日頃、
本校の教育活動に
温かい御支援を頂
いておられますことに、心より感謝申
し上げます。

この度、令和3年度当初の人事異
動で、歴史と伝統のある不動岡高校
の校長として着任をいたしました豊
田でございます。大変な重責ではあ
りますが、与えられた職責をすっか
り果たしてまいります。

昨年度は、埼玉県教育局立学校
人事課長を務めておりました。校長
職は、今回で2校目となります。こ
れまでの行政経験、学校現場での経
験を活かしながら、栄光ある不動岡
高校の更なる発展のため、微力では
ございますが、力を尽くしてまいり
ます。御指導のほど、よろしくお願
いいたします。

さて、今年度も、前年度に引き続
き新型コロナウイルス感染症の影響
により、本校においても様々な教育
活動をその都度見直さなければなら
ない状況にあります。例えば、国際
交流活動に係る研修等の延期や代替
案の検討、部活動、学校行事等の実
施や運営についても難しい状況とな
りました。それぞれについて、生徒
の考えもしっかり受け止めるととも
に、保護者、地域の皆様等の御意見
も伺いながら、安心・安全を第一に、
今出来る最善の形を考え、生徒のた
めに出来る限りの教育環境を整えて
まいります。教育活動を運営する中
様々な課題に対して、学友会役員の
皆様には、御理解・御協力をいただ
いていることに改めて感謝いたしま
す。

また、今年度は、新教育課程編成
の最終段階、学科再編等の課題解決
を図る重要な年となります。不動
「二百三十余年」の伝統を引き継ぐと

ともに、新たな時代に対応した教育
活動を力強く推進してまいります。
「明日の世界を創造する品格あるリ
ーダー」の育成、「科学教育と国際
理解教育の拠点校として」地域文化
への貢献、という教育目標を踏まえ、
日々の教育に、教職員が一丸となり、
全力で取り組んでまいります。

さらに、県教育局の重要課題であ
る「教職員の働き方改革」等につ
いて着実に進めてまいります。ICT
の活用をより一層推進するなどして、
本校の教育の質を維持・向上させな
がら、業務削減・業務改善を行って
まいります。

学友会員の皆様には健康に御留意
され、様々な分野で御活躍されるこ
とを祈念申し上げますとともに、今
後とも、後輩たちのために一層の御
支援・御指導を賜わりますようお願い
申し上げます。

学友の集い (学友会総会) 中止のご案内

本年も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学友会総会の開催中止を決定いたしました。
総会資料は、開催予定日の令和3年11月23日付で学友会ホームページ上に公開いたします。ご意見・ご質問がございましたら、11月末日までお願いいたします。

<http://gakuyu.fudooka-h.ed.jp>

2021年度 慶祝者名一覽 (敬称略)

布施 淨慧 (64回生)	真言宗智山派管長・総本山智積院化主
塩原 康正 (68回生)	第63回埼玉文化賞 (芸術部門)
荒川 岩雄 (70回生)	旭日小綬章
島田 篤 (71回生)	旭日小綬章
吉羽 秀男 (81回生)	瑞宝双光章
小林 幹央 (85回生)	レオン自動機株式会社代表取締役社長
川上 良一 (90回生)	日本赤十字社金色有功章
野崎 正 (92回生)	埼玉弁護士会会長
新井 康之 (94回生)	埼玉県立羽生高等学校長
奥山 龍一 (94回生)	鴻巣市立共和小学校長
伊呂原 隆 (101回生)	上智大学副学長
小関 秀峰 (112回生)	博士号 (工学)

おめでとうございます。

今年度も総会会場での表彰ができませんので、大変残念ですが、表彰状と記念品を郵送させていただきます。

2020年度 (昨年度) 慶祝者名一覽 (敬称略)

小川 武雄 (64回生)	瑞宝双光章
古峰 孝 (67回生)	文部科学大臣表彰 生涯スポーツ功労者
斉藤 篤美 (68回生)	従六位瑞宝双光章
植竹 英生 (72回生)	瑞宝双光章
竹下 成子 (75回生)	瑞宝双光章
大塚 宏 (85回生)	J A 北埼玉理事長
小野田幸夫 (85回生)	本校永年勤続
高橋 利光 (91回生)	久喜市立栗橋西中学校長
書上 純子 (91回生)	さいたま市立道祖土小学校長
堀内 俊吾 (91回生)	久喜市立久喜中学校長
藤間 隆子 (94回生)	加須市立加須東中学校長
福岡 聡 (96回生)	埼玉りそな銀行 取締役社長
大塚 宜寿 (98回生)	化学博士 博士号
神田恵美子 (98回生)	文学博士 博士号
坂巻 功一 (98回生)	工学博士 博士号
酒巻 誠 (98回生)	工学博士 博士号
猪原 誠一 (99回生)	八潮市立大原中学校長

学友会慶祝者表彰及び古希祝いについて

今年度も慶祝表彰に値する皆さんの推薦が多数寄せられています。例年総会場で皆様にお会いし、各方面でのご活躍の様子を伺い懇談することを楽しみにしておりましたが、昨年からは、コロナウイルス感染拡大の影響により開催できず本当に残念に思っております。また、古希の皆様をご招待しての懇親会も同様に実施することができなくなっています。来年こそは、コロナウイルス対策が進み、何の心配もなく盛大に総会、懇親会を執り行い皆様にお会い出来ることを祈っております。その際には昨年、本年と、ご招待が叶わなかった皆様すべてにご案内を差し上げたいと考えております。どうぞ皆様油断なさらず感染予防を徹底し、笑顔でお会いできますようお願いいたします。学友会役員一同

学友会表彰について

学友会の表彰は、左記の表彰規定により、自薦または他薦にてご連絡をいただいた方となっております。該当または推薦される方は学校(学友会事務局)にご連絡をお願いいたします。

- 1 県市町村の首長、国会・県会議員に選出された者
- 2 学位を受けた者
- 3 国の褒章を受けた者
- 4 国またはこれに準ずる団体や県等の賞を受賞し功績が顕著な者
- 5 学術文化上特に功績が顕著であり会長が認めた者
- 6 県内公立学校長、県職部長等に補せられた者
- 7 本校に13年以上勤続された教職員
- 8 本会会務の運営に多大の貢献をした者
- 9 前各号以外で特に会長が慶祝表彰に値すると認めたる者

※特に企業において活躍されていらっしゃる方もご推薦ください。

なお、学友会だよりに掲載する都合上、6月末日までにご連絡を頂けると幸いです。





手を合せているよ」。たとえ一人で、私の画に手を合せてくれる人がいたと聞いて、坊さん冥利に尽きるとはまさにこのことだと感じ、その後は、毎年こつこつ仏画ポスターを作り、お寺の話や、定期的にお邪魔している刑務所の教誨等にも仏画を持参して話をするようになりました。

そんな折、突然、不動岡高校のクラスメートであった不動ヶ岡不動尊總願寺・山口真司住職から「腰塚、是非うちで仏画教室を開いてくれないか」という内容の電話が入りました。聞けば、彼の一番の夢、願いは、總願寺がなにより、人々の心の拠り所の寺として地域に根ざして興隆することであり、その為にも将来様々な文化活動も行つてゆきたい。その第一歩として私に仏画をやってもらいたいとのことでした。そこで、まずは仏画とはどのようなものであるかを知っていたらどうかと「展覧会」を開くことになり、同じく同級生の原田光氏はじめ、多くの不動岡の皆さんのご協力をいただいて仏画展を開催。その後、月一の「仏画教室」を同所で開催することになった次第です。

たとえ何かに思い悩んでいる時でも、端麗な仏像を仰ぎ見ていると、いつの間にか「自分」と「仏」が一体となつていけるような安らかな気持ちになれることがあります。そしてそこに理屈を超えた仏の偉大な力を感じます。また、ただ黙々と仏像を描いていただけだと思つていたのですが、不思議なことに、そこに何か不思議な力が働いて、様々なご縁が膨らむことも実感しました。うまくは言えませんが、仏画には、時間や空間を超えた、何か不思議なバイブレーションがあるような気がいたします。

※文中の写真は遍照院「祈りの美術館」にて撮影



「仏画教室のご案内」

遍照院仏画教室
毎月第二土曜日とその前日の金曜日
(埼玉県久喜市)

總願寺仏画教室
毎月第四土曜日(1月8日はお休み)
(埼玉県加須市)

見学自由

お問合せ：腰塚

(TEL 0480-2216303)

どうぞお気軽にお問合せ下さい。

「フィレンツェで活躍！」

関根 道子氏 (70回生)

今年5月にOBの紹介で70回卒の関根道子氏のお姉さまのお宅に取材に伺いました。

関根道子氏は1939年生まれ、1957年不動岡高校を卒業後、いったんは加須電話局(電電公社)に就職されましたが、音楽への道をあきらめきれず、夜間に2年間品川の日本音楽学校に通われ、1969年30歳の時に念願かなってイタリアへ渡ります。

その後は、プロフィールに書かれている通りですが、お姉さまから伺ったお話はあまりにもたくさんで、まとめきれずになりました。

そんな時にお預かりした資料の中から、ご家族の想い、そして当時の道子氏への努力がうかがわれる言葉を見つけたのでご紹介いたします。

現在、道子氏はご病気でお話を直接伺えないことを大変残念に思います。



後列左 3大テノールのうちのひとりルチアーノ・パヴァロッティ氏、後列右は関根道子氏

関根道子氏 (70回生) プロフィール
埼玉県加須市出身
1969年 イタリアに渡る、フィレンツェ市居住
1973年 イタリア国立ケルビーニ音楽学校卒業
1980年 フィレンツェ市テアトロ・コムナーレ合唱団に入団。
ルネッサンス音楽研究グループに所属。
ソリストとしてコモ現代音楽祭に出演

所属歌劇団日本公演
フィレンツェ市立歌劇場合唱団専属歌手として日本公演に出演
1996年9月 「ランメルモールのルチア」東京文化会館
1997年3月 「アイダ」神奈川県民ホール・NHKホール
2001年3月 「椿姫」東京文化会館
「トゥーランドット」NHKホール
2006年9月 「フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団特別演奏会」東京文化会館
「ファルスタッフ」東京文化会館
「トゥーランドット」神奈川県民ホール・NHKホール
「フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団特別演奏会」東京芸術劇場

日本での個人リサイタル

- 1983年8月 「イタリア歌曲の夕べ 関根道子ソプラノリサイタル」
初帰国リサイタル 加須市民福祉会館
- 1985年8月 「関根道子ソプラノリサイタル」
羽生文化ホール
- 1993年8月 「リナルド・ローラ&関根道子デュオリサイタル」
久喜総合文化会館大ホール
- 2000年1月 「関根道子ソプラノリサイタル」
パストラルカゾ小ホール
- 2002年3月 「和声会コンサート フィレンツェ歌劇場メンバーと共に誘う「ロッシニーの世界」
羽生産業文化会館大ホール

「1983年初帰国リサイタル時の

お姉さまのご挨拶の言葉

ごあいさつ

このたびは、妹、道子のリサイタルを企画いたしましたところ大勢の皆様、御来場いただきことになり、主催者として、この上ない喜びでございます。

道子は15年前、音楽の道を志し、単身渡欧したわけですがそれ以来、故郷で歌うことはありませんでした。その間の彼女の歩んだ歳月は、人には言えない苦勞の連続であったと想像できます。涙でにじんだ手紙を受け取った時の胸の締めつけられた思いなど、ほんとうに多難な

道でございます。

しかしながら、こうして久方ぶりに帰国し、皆様に勉強の成果を聴いていただく機会ができましたことは、本人はもとより、私共身内にとりまして、今迄のはげましと、御恩に少しばかり報いる事ができ、責任を果たしたという思いでございます。

道子は、来月早々、再び、フィレンツェに戻りますが、今後共、幾く、久しく皆々様の御支援をお願いいたします。ごあいさつとさせていただきます。

道子の姉 野本 季枝



「1985年のリサイタルの

プログラムに寄せられた言葉

◆関根道子さんについて！

関根道子さんを知り合ったのは、今から14年前、1971年の冬のことである。私がイタリア中部の町、ペルージャの大学に通い始めた頃で、関根さんはペルージャ音楽院で音楽を勉強していた。音楽院での授業のかたわら、イタリア語の語学学校にも通っていた彼女をみて、実に勉強熱心な人だという印象をもった。この印象は間違っていないかった。自己の芸術を完成するために、ひたすら勉強に励む彼女の姿勢はフィレンツェ音楽院に籍を移してから変わらなかった。有名なオペラ歌手のコンサートがあると、忙しい日課をやりくりして聴きにいき、音楽院が休みに入るとザルツブルクの夏季講習を受けるために、オーストリアまで足を運んだ。ドイツ歌曲を歌うためにドイツ語も学び始めた。

「1993年のジョイントリサイタル

プログラムに寄せられた言葉

◆関根道子さんについて

花の都、フィレンツェはイタリアの中部、アルノ河畔に横たわる古い都。ルネッサンス文化の香りを今に伝える芸術の街でもある。

道子さんとはご尊父を通じての知人だが、彼女が本場の音楽を学ぶためにここを訪ねたのはたしか1969年の頃

だったと思う。

彼女は名門、国立ケルビーニ音楽学院を卒業後もずっとこの地にとどまっていた。卒業後もずつとこの地にとどまっていた。苦の日々がなかったわけではない。学費を賄うためにしばしば通訳もつとめた。「父親逝去」の悲報に涙しながら最後まで作家、水上勉さんと同行して市内の案内役に徹し続けたこともあった。その事実を知った水上さんは彼女に激励の手紙を送っている。何事にも苦難にめげず決意を貫く彼女のひとがらを窺わせるエピソードである。

フィレンツェを中心として精力的に活躍するその道子さんが帰ってくる。前回のリサイタルで披露されたすばらしいソプラノの歌声は今なお私の耳底をはなれない。そして再び彼女の歌声を聴くことができるかと思うと、大きな期待に胸おどる思いがする。

聴衆の皆さんとともに惜しみない喝采をおくりたい。

大正大学教授 大谷 旭雄

「この夏不動岡健児は熱く燃えた！」

野球部OB会幹事

岡戸 明 (89回生)

コロナ感染拡大で夏の大会を行えないまま高校生活を終えてしまった昨年の夏。今年の夏、不動岡高校野球部はコロナを吹き飛ばす熱い闘いを展開し、応援する者にも大いなる感動を与えてくれた。

○一回戦 对新座高校 11対3

打線が爆発し8回コールドで勝利

○二回戦 対市立浦和高校 3対2

1点を争う緊迫したゲーム最終回に

勝越打で勝利

○三回戦 対大宮北高校 15対13

シード校と壮絶な得点争い最終回に

大逆転勝利

○四回戦 対松山高校 8対11

序盤に大量点を許し終盤6点入れ粘るも一歩及ばず

どの試合もよく打ち(全試合一ケタ安打)、よく守り(4試合でエラー3)、高校野球のすばらしさを遺憾なく発揮してくれた。浅沼投手の4戦通じた力投、村岡捕手の2回戦・3回戦で見せた9回決勝打、後藤選手の11安打・打率5割5分の猛打など、その活躍はすばらしいものであった。

コロナ禍で大声や楽器の使用は禁止、応援団の指揮のもと、チア・生徒・先生・保護者・OBが一丸となり拍手による大応援、野球部の活躍を鼓舞し不動岡高校の存在感を大いに発揮することができた。

後輩たちを支援するためOB会も協力会員を増加させるべく活動を活性化している。フェイスブック(124名参加)やeメールを使い、チームの試合予定や結果などこまめに情報を連絡する。



今夏は会場での応援者を募り、来られない人には実況報告を行った。多くの方から感謝の言葉をいただいた(山口在住の方から不動岡の試合を60年ぶりにネットで見ると涙した等)。また、

応援用の「オリジナルタオル」や「応援マスク」を作成し、野球部員だけでなく保護者、応援団などにも配布し試合会場での一体感の増強に役立てた。来年の夏に向けて、すでに現役生は新体制を発足した。OBもさらに活発に活動したい。

「第二回不動岡高等学校 卒業生による美術展」ときを超えて」

事後録

身近にあるものの中から独自のおもしろさを発見し、それをあれこれ組み合わせる意味あるものに仕立てていく。これは美術作品をつくることの醍醐味であると同時に、人が人として生きていくうえで欠かせない能力でもあります。一筋縄で取まることのなかった今回の展覧会を通して、そのことを改めて考えさせられました。

さて、2020年に入ると「新型コロナウイルス」という聞きなれない言葉が世を席巻するようになります。すぐに治まるだろうと高を括っていたのも束の間、3月にはオリンピックの延期が決まり4月になると緊急事態宣言の発出、いよいよ長期戦となる様相を見せてきました。展覧会は本当に開催できるのか、結論は8月末に持ち越すこととなりました。

8月30日、いよいよ決断の日がきました。すでに出品予定者からは出品料をいただいています。これは、出品者と実行委員会との間で展覧会開催に関する契約が結ばれているということです。これを解消するには、誰もが納得できる合理的な説明が必要です。



会場風景 (撮影：高橋和一)

役員会において、他の美術展の開催状況や入場者数の想定、出品者どうしの接触可能性、入場者どうしの距離の確保、美術展でのクラスター事例などについて白熱した議論が交わされました。その結果、基本的な対応さえ行えば感染の可能性は極めて低いということが了解されました。

さらに重要なのは、本展は実績を積んだ美術家による公共性の高い事業であるという点です。そうである以上、たとえ入場者が少なくとも作品を見てもらうという社会的責任があるはず。出品者の間にもこの想いは共有されていたと思います。

10月22日、本展は無事開幕しました。同時期に発行された『学友会だより』には、出品者全員の作品図版も掲載していただきました。初日はやや雨模様だったものの週末は爽やかな秋空に恵まれ、最終的に360名の来場を得ることができました。

新型コロナウイルスの感染拡大は、これまでの日本の歩みに大きな方向転換を迫っています。先延ばしにしてきた問題



が、これ以上押さえきれなくなつたといふことである。

東京だけで日本を支えていくことはもうできません。中央と地方が手分けしてもつと効率的に運営していかなければならないのです。そのためには地域に潜在している力を見つけ出し、活かしていく必要があります。そこで重要になるのが、新たな価値を生み出すことのできる発想力でしょう。これからは美術も、地域創造に貢献する時代になるのだと思います。

同展実行委員 松永康 (88回生)

事業名：第二回不動岡高等学校卒業生による美術展〜ときを超えて〜

会期：2020年10月22日(木)〜25日(日) 4日間

(日) 4日間

会場：加須市文化・学習センター「パストラルかぞ」展示室

後援：埼玉県立不動岡高等学校学友会

協賛：柿崎耳鼻咽喉科医院、(株)ザ・グリーンアカデミー、三愛音楽

スクール、関根歯科医院、春山幼稚園

主催：不動岡高等学校卒業生による美術展実行委員会

第11回 不動岡高校卒業生によるガラソンサート

2021年11月14日(日) 14時開演
パストラルかぞ 小ホール

詳細につきましては、お問い合わせください。

(ガラソン実行委員会 松本)

0480-61-4679

不動岡と澁澤榮一とのつながり②

澁澤榮二氏来遊記念碑

(不動岡總願寺裏庭)

澁澤榮一氏の私立埼玉中学(不動岡高校の前身)等での講演(大正7年2月)を記念して建設されました。

澁澤氏の講演は、埼玉中学校校友会報第5号(大正8年8月発行)に「澁澤男爵講演筆記」として掲載されています。



碑の表面(論語の一文 澁澤氏書)

(論語の書き下し文)

言忠信、行篤敬なれば、蛮貊の邦と雖ども行われん。

言 忠信ならず、行篤敬ならざれば、州里と雖ども行われんや。

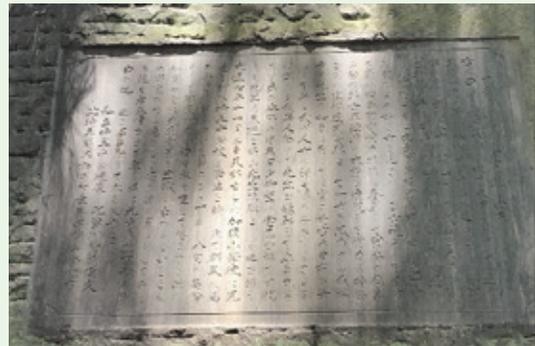
碑の裏面(澁澤榮一氏来遊の由来)

(澁澤榮二氏来遊の由来)

：令和元年6月16日 野口達郎氏調べ
男爵澁澤青淵先生来遊之由来

古人曰はく、関東八州は以て天下に敵するに足り、武蔵一国は克く八州に敵するに足る。実にや、慄悍剛直は武州人士の特色にして、武名を天下に馳せ功烈を千載に胎せるも諸挙げて数ふるに違あらず。憾むらくは、文武兼備

経国の才濟世の志、一世の望たるが如



き士を見ざりしを。

士魂にして商才を兼ね、内帝国実業の振作に参画して国本の樹立に努め、外世界経済の大勢を達観して国力の培養を図り、宏徳達才鬱然として一世を風靡せる我が青淵先生の如きに至つては、実に前古未曾有の士にして、単に武州人士の誇たるのみにあらずなるなり。宜なる哉、県人挙げて先生を敬慕して止まざること。

茲に本郡の有志日夕仰望の念已む能はず、親しく先生の来遊を請ふ。先生欣然として之を諾し、大正七年十一月二日来郡せられ、加須小学校に児童を訓へ、埼玉中学校に學生を諭し、次で郡民の為に勞使協調について説かるゝ所あり。八旬の高齡にして郷党の為に諄々教を垂れて倦まざる。此の如きは実に先生愛國の至誠に

出づるといへども、亦郷党の為に慮ること忠なるに因らざるばあらず。聴く者感憤せざる無し。

茲に先生来遊垂教の事由を記し、之を石に勒して永く後世に伝ふ。

私立埼玉中学校長 肥留川鷲雄 撰文
北埼玉郡不動岡村長 峯岸傳三郎 謹書

大正7年11月2日の澁澤榮二氏の加須訪問の行程

(龍門雜誌371号より)

※国民新聞埼玉版(11月4日5日)の記事

1. 午前9時17分 澁澤氏加須駅着(東武伊勢崎線)

武伊勢崎線

・久喜駅にて関口加須町長、網野豊次郎(埼玉中学位理事長、埼玉製絲社長)、清水近太郎(加須銀行頭取)が出迎え、加須駅まで同行した。

・加須町内各戸国旗掲揚、駅前には加須町会議員有志・加須軍人分会員・青年会員・埼玉中学生徒総代・加須小生徒が出迎え、役場前には埼玉女学校生徒が整列して出迎えた(町民や付近村民折り重なりて歓迎す)という記述があります。

・関口町長、男爵、梅沢興業銀行員(澁澤氏の紹介で日銀から興銀に転職)、網野製絲会社社長、清水加須銀行頭取、野本倉庫会社社長(野本三之助 後に加須銀行頭取)、若林産業会社社長(若林金蔵)、比留川埼玉中学校長の順で加須小に向かう

2. 加須小学校に至る

・有志家の引見
・埼玉産業同業組合出品に係る織機足袋縫の作業を視察し、新木組長などの説明を聞いた後、記念撮影した。

・小学生の成績品や高等2学年生の書方を賞めた後、校庭にて小学生に対する講和を行う(講和の概要の記載あり)。

・講和終了後(10時30分ごろ)、校庭内の日露戦争記念碑前に記念の松を植える。

3. 埼玉製絲会社に至る

・網野社長の案内にて「埼玉製絲会社」に至り重役の梅沢吉太郎・菊池寛隆氏の出迎えをうけ工場を視察し、客室に

おいて網野・若林氏の説明を聴く。
・比留川埼玉中学校長の先導で同校に向かう。途中不動岡小学校生徒が歓迎のため門前に整列、埼玉中学校生徒は校庭に整列して迎えた。

4. 午前11時埼玉中学に着す(当時は岡古井の校舎)

・比留間校長の先導にて出井兵吉理事(当時は県会議員、後に衆議院議員)、石田教頭以下職員が出迎え、校長宅(校内に存在)にて休憩する。

・講堂に生徒を集めて比留川校長の開会の辞の後講演あり(11時30分 講演録は不動岡学友会誌に掲載されている)。※学友会だより第62号に掲載
・終了後 書餐(昼食)のため休憩する。
・13時から、梅沢慎六氏の開会の辞に続き一般聴衆者の為に2時間にわたって大講演を行う。

・有志による招待会に臨み、小林辰蔵(埼玉中学位理事 県会議員)の謝辞に対し男爵から答辞があった(話の一部が青淵余話として紹介)。
・網野豊次郎氏の音頭で「男爵の万歳」、男爵は「講演会の万歳」をしたのち酒宴となる。午後3時には会場を辞する。

5. 15時51分澁澤の加須駅から見送る

・途中総願寺にて山口定道同士の先導で境内裏山に記念の松を植える。
・雨中停車場に向かい駅長室にて休憩す。駅構内に松村校長に引率された加須小の生徒・青年会有志の見送りを受け帰京した。

(89回生)

岡戸明

武正章

野口達郎調べ



令和二年度 学友会 年会費 納入の方々(令和3年7月) 皆様のご協力に感謝いたします。

《50回生》 並木忠雄	齊藤博道	木村信子	伊藤伸一	矢作登志江	漆原次男	水垣浩	清水利夫	小山三郎	吉田一樹	塚田晴弘	村澤才子	柏浦勝良
《54回生》 小川勝信	野中弘道	小暮洋子	今泉巽	池田菊江	荻野貢成	《73回生》 小川芳子	萩原忠夫	相沢勝寿	石井司郎	戸川泉	大塚はま子	金子幸司
《55回生》 神田亮	福島勇	《66回生》 野口徳泰	遠藤俊作	河野淑子	木宮進	木村孝夫	小川芳子	横山博之	竹内洋行	野本宗堯	神藤和枝	神谷富美夫
《56回生》 鈴木文男	内田時夫	《64回生》 安藤義夫	大塚喜正	《70回生》 朝比奈徹	小峯十百一	林作子	奈良昭男	榎本治司	高橋道男	物江理	稲山清子	齋藤桂一
《57回生》 堀山清次郎	柿沼貞雄	長瀬憲	加藤忠迪	荒川岩雄	鈴木弥寿夫	鈴木キヌエ	高橋善之丞	塩崎一秀	松井樹	石井忠	吉田得子	塚田章一
岡安仁美	小嶋悦雄	小川武雄	野本恒雄	飯島誉夫	中島信行	宮本キヌエ	松永健	小川王幸	岩田光司	岡野幸雄	安野陽子	山崎哲男
後藤梧一郎	小峯英夫	小嶋省吾	福岡利則	五十嵐敬	橋本隆	金子久美子	大越宏一	原徹	染谷憲明	鈴木松蔵	川村文子	飯山武正
並木友次	篠崎英治	《67回生》 荒川民雄	荒川歌津	岩崎初史	伴光治	平井美代子	金子賢治	森元秀男	富田幸雄	高野英治	林美枝子	岡野治夫
堀越健治	鈴木秀三郎	《59回生》 南條喜三郎	石川隆夫	河野祐一郎	本多喜与司	橋本兼子	永橋進	《76回生》 齋藤萬智子	中澤達夫	並木勝秀	並木克美	栗原幸司
《59回生》 柿沼伸吉	永沼登	松永喜芳	大谷利勝	岡田文男	山根克己	吉田典子	宮沢浩	《78回生》 高品誠子	中澤達夫	並木勝秀	並木克美	栗原幸司
三枝安茂	森登	古峰孝	鴨野幸雄	田辺利夫	小寺順子	野本百合子	遠藤浩	矢澤將之	平澤道男	伊井悦子	塚田喜三	新井喜代志
《60回生》 木村裕	若狭信夫	坂田金作	杉田守康	野中正幸	新井陽吉	萩原義之	酒井武	《75回生》 渡辺孝太郎	飯塚孝吉	五十嵐光枝	蓮見昌克	加藤道雄
大塚勝彦	蓮見松也	小堀敏男	小堀敏男	松村雄	石川勝正	宮内達夫	《74回生》 龜田恵子	鹿兒島可津子	白倉幹男	草柳邦子	梅田俊夫	落合秀雄
駒宮太一	布施浄慧	中島睦雄	花俣博之	武藤功	伊豆井省三	藤居弘	村上佑子	遠藤友子	清水和夫	神作法子	矢沢民生	砂賀実枝
小山栄	齋藤馨	松村修	松村敏孝	三富榮利	岩崎良一	植竹英生	小川智之	《77回生》 山下美恵子	桂美枝子	洪田アヤ子	砂川利雄	須永実
関口午郎	梅澤文男	清水延浩	山田滋	島田三男	吉岡楓雄	渡辺貞夫	齋藤陽子	重田君代	中里英子	榎山至	瓦谷登志彦	加藤征
中太庄	杉田勝房	山田淑	関根孝司	田辺末子	新井秀子	丸山明子	《71回生》 福島京子	嶋田昭	小林孝次	根岸規雄	高橋裕子	飯塚眞康
増田勉	須永康雄	矢島正雄	金山雅一	新井秀子	丸山明子	高橋洋子	奥田洋子	篠崎千恵子	矢島美代子	新井榮二	島田篤	漆原慧
《62回生》 鎌田道雄	関口正夫	田辺雄三	藤間修一	三浦千代	小磯ミチコ	根岸政子	野中嘉乃	《68回生》 青木清	明石進	新井省三	新井亨年	伍井伊佐実
坪井忠夫	田辺雄三	鈴木政子	三浦千代	野中敬二	樋口忠孝	平沢紘介	蛭間貞夫	川島達男	森田利夫	渡辺宏	青木照枝	川島徳子
福田功	藤間修一	野上健一郎	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃
本多一基	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃
森井信行	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃
《63回生》 荒川英男	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃
井ノ山恒雄	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃
小沢政夫	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃
岸宣美	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃
小久保達之佑	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃
小林光	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃
田島寛	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃	野中嘉乃



池田栄一	金子忠	秋山裕	堀口やよい	坂田光司	新井弘	石井康夫	野村邦実	小野田幸夫	谷津孝	荻野博恵	吉岡容	西沢康男
石川哲夫	五十嵐誠二	石和田好男	加藤朱実	島田晴義	猪俣哲夫	小関裕雄	川羽田昇	大澤弘幸	小澤一夫	齋藤規生	《90回生》	《91回生》
石川昇	倉持孝雄	井上愛太郎	松本さなえ	清水俊郎	小川達夫	栗原和文	和島元司	岡尚省	腰塚勝也	並木崇	桑原信也	岡部修二
市川博章	栗原基安	小沢博	家内秀子	二宮章	小川良雄	関根修一	柿沼英一朗	金子文治	篠原弘子	冲野和子	佐藤政明	奥貫芳夫
小林達宜	酒巻忠重	木宮幹雄	奥貫文男	野本武市	荻原康広	田口修由	小林政秋	川崎一也	折原佳子	岩崎達之介	鈴木岩根	川野辺忠志
鈴木知茂	田中衛吉	小林守	代豊	肥島篤	木村昇	為谷健一	関根郁夫	栗原啓次	秋山泰	小倉久義	田村健一	榎島良治
野川憲夫	(Eikichi Tanaka)	塚越秀雄	野口敏男	森山富治男	笹本久雄	堀口弘	吉野宏	《86回生》	大久保泰伸	小澤幸夫	矢野晴久	宗博司
松村秀	谷内義憲	中村高康	松村隆史	今成和明	長谷川昌則	渡辺俊明	三ツ木規之	石井義久	白石秀明	小野田榮	大戸孝樹	伍井政広
新井幸三	戸枝均	矢嶋利雄	安原一夫	齐藤純	森馨	《83回生》	荒井信明	五ヶ谷公一	松永知子	加藤修	堀越保夫	井上秀二
内田邦雄	野本久夫	吉田茂	川崎雅春	齐藤敏明	會田章吾	荒木明代	金子清志	駒井信亮	白石薫	金井進	井上貴久雄	入江和夫
榎本善仁	岡部政広	渡辺勝次	長島隆	長谷部八郎	池田勝一	田邊厚子	木村操	駒井信亮	野口時雨	川田尚徳	庄子洋子	駒宮一彦
会森正	小島博典	青木春夫	増田俊夫	賀山進	田中元三郎	北村利江	高橋一雄	高橋一雄	関根典夫	小山雅章	越谷裕美	酒井宏典
大和田清美	庄子佳男	青木照雄	浅井順	熊田実	坂田博史	高橋妙子	星野守男	森田孝文	中島一郎	酒井春雄	岸澤秀紀	杉村浩美
永澤啓市	高橋克賢	磯ヶ谷公典	塩崎範道	熊田豊	坂巻博康	武正光江	《85回生》	長谷川隆	奥律智世子	武正章	金子孝雄	武内江里子
松永昭	田口幸隆	関口丈利	高瀬賢一	斎藤修	野本豊	長澤清輝	大島純	吉山朗	宮本滝枝	中島守	木村純	小篠敬子
山田幸吉	西田高久	門井茂	高橋壮一	田中佐二郎	程塚秀夫	萩原達雄	神田茂	荒木文郎	荒木宣子	中島守	高谷昌宏	米沢美代子
《80回生》	平社陽平	高橋拓治	内藤正和	柳田和夫	山口純一	松岡章	杉田広之	船川喜正	平川秀子	川端信夫	中村達興	芳賀沼美佐子
加藤洋子	藤田竹一	井对実	野々山和博	早川潔	山口純一	栗原嵩	荒井弘	荒川明	島崎弘明	多田栄樹	蛭間吉伸	永沼京子
鳴孝子	松村正	小野正	内田一	藤沢守久	小澤達男	千葉充	坂本健司	大塚孝司	永井清史	山崎喜市	石橋桂子	池田久
鎌田恵美子	宮本正	小島啓市	江森信行	程塚隆二	柿沼三男	橋本好司	新倉敏美	松永孝夫	松本稔	山之内正夫	相沢正実	星子浩
堀越タケ子	村山保雄	塚越雄導	金子昇	宮崎孝	小池正則	矢島一憲	片山秀丈	中野晃	長谷部武	吉永信明	齐藤幸男	吉田健
谷山とく子	吉田章	藤原彰	小暮喜一郎	《82回生》	島海和彦	小倉健治	田村恵二	大豆生田宏子	《89回生》	渡邊弘	玉田建夫	米沢正巳
梅田由味子	小川雄司	星野幸夫	小林一美	菊地裕子	渡辺和巳	大島豊	白田幸男	松岡延勝	加藤達也	新井秀夫	羽田邦弘	千葉直美
益田和代	木村栄二	《81回生》	富田計	田畑和子	渡辺洋一	鈴木一雄	橋本賢一	吉野道博	田中孝佳	岩瀬崇	増田睦	門倉正明
磯谷佐知子	小林好行	寺岡静子	中村英雄	須永景子	伊藤千廣	若山勝彦	小林繁男	小貝賢一	小沢信吉	小川博和	川上良一	藤野貴之
坂本勝代	齋藤勇	太田智恵子	根本豊作	熊谷麻子	井上政彦	海野裕	山口清貴	角田守	石井仁	木村俊之	鈴木望	坂井玲子
石井廣子	鈴木孝士	井上律子	橋本俊治	大熊典子	清水亨	中澤浩之	藤倉順子	岡野行男	小林浩	坂田亨	野中信英	柿沼耕一
矢澤美佐子	高松裕	茂木晴美	原房雄	赤沢正子	鈴木実	鎗田和男	穂山潔	長野和雄	駒宮和明	中島一彦	長谷川繁雄	村田秀夫
西村栄美子	角田健司	北出和子	大塚哲郎	中山明美	関根剛	赤坂栄	荒井信男	箕田真人	渡辺勝弘	阿部宏之	新井健一	森田剛夫
杉田けい子	中田豊	駒沢希美	加藤精一	白井朝子	五月女育男	赤坂栄	植竹浩昌	《87回生》	兼平佐知子	柿沼寿之	石井伯夫	書上純子
後藤敏子	林喜一	塩原千代子	折原茂	佐川英子	坪井和雄	小林謙一	柿沼郭	藤田博史	高重規子	菅野光俊	菅野光俊	鶴飼道男
田島まき子	松村喜一	瀧田和子	篠田幸雄	片岡みどり	石川清志	小森謙一	植竹浩昌	鎮守町子	井上美登里	菅野光俊	大塚一秀	鷲飼道男
滝川カズ子	安田進	新井廣子	嶋田晴光	関根知代子	大塚孝	荻戸竹彦	有賀浩子	木村弘	戸川純子	杉本真一	小川毅彦	岡本和久
菅沼静江	山田英治	今成朋子	鈴木恒夫	松本真寿美	川辺隆一	《84回生》	加藤正二郎	田中利幸	狩野知子	成田哲也	小野寺弘幸	高橋宏晃
黒田茂子	小川明	高橋典子	綱川治	鈴木正一	田島実	細井賢	金子文男	野口茂夫	岡戸明	芙蓉良雄	小島丈弘	坂入順子
保泉正子	伊達久雄	田中清代江	本間隆	榎本正美	谷川幸夫	小沼重雄	瀬田義雄	桜井真二	石嶋明男	細村泰夫	酒巻剛	野中恵美子
白村清美	杉山克博	神山登美枝	三田倉三	柿沼義孝	土岐伊弘	平澤清	中里邦男	瀬山良一	吉田正	山本茂夫	島野亮一	池上正智
田沼美津子	小坂芳廣	吉原信子	岩崎正紀	金子秀樹	中村博之	小熊喜美雄	山崎秀勝	寺山俊昭	宮戸澄子	荒木俊一	夢川安典	今成貞昭
須田洋子	齊藤裕	伊古田陽子	植竹博	黒須明海	野中正雄	腰塚隆	大塚均	齋藤洋子	浦野明美	尾城一幸	青木克美	岡安裕之
高橋節子	松本清	真崎知子	福嶋昇	黒須明海	萩原昇	関根雅彦	三谷和正	小山直四	小林澄江	駒宮寿一	荒川陽介	小林一郎
飯野顕	青鹿輝雄	藤井静子	小山登	高橋伊佐夫	有山悦路	矢島文夫	吉田憲史	藤野一郎	渡邊万里子	野原精一	榎本昌己	小林克彦
												宮島昭宏



- | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|--------|-------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|--------|-----------|-----------|
| 矢辺徹 | 岡田史伸 | 矢嶋正俊 | 三塚和幸 | 川島好美 | 《102回生》 | 本田雅子 | 《121回生》 | 小山巧 | 小林步夢 | 佐藤瑠星 | 《中普・8回生》 | 大月美代子 |
| 折原浩之 | 三枝誠 | 《94回生》 | 関根憲夫 | 真坂八重子 | 黒須玉衣 | 渡辺千恵子 | 酒巻和也 | 三橋優貴 | 佐藤昂弥 | 荒井香帆 | 《中普・9回生》 | 《羽普・10回生》 |
| 関根真一 | 竹田秀行 | 内田靖 | 日下部洋子 | 荻野敏成 | 《103回生》 | 若松誠 | 《110回生》 | 中里善匡 | 前田風 | 坂井綾菜 | 《中普・9回生》 | 森田清子 |
| 寺田昌弘 | 佐藤厚子 | 新島浩 | 柿崎暁 | 忍田昇一 | 岡安聰 | 森野明美 | 西山佳孝 | 飯島春美 | 柳田恭佑 | 恩田拓海 | 《中普・10回生》 | 伊澤一郎 |
| 江森弘明 | 岡田時秀 | 山田徹夫 | 染谷明生 | 松本幸枝 | 森野明美 | 武田圭二 | 飯島春美 | 貝塚翔太 | 荒川未実 | 橋本駿介 | 《中普・10回生》 | 石川竜二 |
| 木村光良 | 齊藤孝道 | 田尻伸行 | 島海仁克 | 柿沼信和 | 森野明美 | 武田圭二 | 飯島春美 | 貝塚翔太 | 山崎豪大 | 小林怜生 | 福永景乃 | 白石就也 |
| 関根章好 | 酒巻浩一 | 五月女一義 | 中村哲史 | 鳥海仁克 | 森野明美 | 武田圭二 | 飯島春美 | 貝塚翔太 | 山崎豪大 | 小林怜生 | 福永景乃 | 白石就也 |
| 萩野充 | 酒巻浩一 | 五月女一義 | 中村哲史 | 島海仁克 | 森野明美 | 武田圭二 | 飯島春美 | 貝塚翔太 | 山崎豪大 | 小林怜生 | 福永景乃 | 白石就也 |
| 橋本和人 | 宮田由里子 | 三宅光子 | 鈴木洋子 | 中村哲史 | 森野明美 | 武田圭二 | 飯島春美 | 貝塚翔太 | 山崎豪大 | 小林怜生 | 福永景乃 | 白石就也 |
| 福島和男 | 五味登志子 | 新井康之 | 槍田光東 | 大塚宜寿 | 関根絵里子 | 半田貴史 | 田口亜紀子 | 隅田茜 | 後藤彩香 | 坂本柚樹 | 儀貝つぐみ | 高橋和一 |
| 水野浩 | 川本直弘 | 藤間隆子 | 岡戸光男 | 酒巻誠 | 村田悟 | 平澤健一郎 | 根岸清夏 | 根岸清夏 | 森井晋吾 | 石井仁稲 | 竹腰麻由 | 伊藤瑞唯 |
| 諸井寛 | 坂本丈晴 | 赤坂政幸 | 奥澤幸夫 | 酒巻誠 | 村田悟 | 平澤健一郎 | 根岸清夏 | 根岸清夏 | 森井晋吾 | 石井仁稲 | 竹腰麻由 | 伊藤瑞唯 |
| 永井隆正 | 服部幸司 | 大竹達也 | 福岡聡 | 堤光伸 | 《104回生》 | 森田健也 | 小関秀峰 | 和田裕 | 《112回生》 | 酒巻由梨奈 | 山中知奈美 | 西畑美来 |
| 《92回生》 | 阿部幸夫 | 瀧本俊智 | 藤間昌子 | 向井博之 | 《104回生》 | 森田健也 | 小関秀峰 | 和田裕 | 《112回生》 | 酒巻由梨奈 | 山中知奈美 | 西畑美来 |
| 今井章夫 | 近藤秀治 | 増田正夫 | 松野陽一郎 | 坂卷功一 | 相沢千冬 | 小林純 | 寺崎努 | 吉久保道明 | 《105回生》 | 小林稔 | 板橋孝幸 | 西片奈々 |
| 大野雅夫 | 張替守 | 加藤健司 | 折原義彦 | 矢島徹 | 《109回生》 | 諸井真英 | 加藤富之 | 西片奈々 | 《106回生》 | 内藤貴志 | 三浦豊 | 櫻田忍 |
| 神澤秀明 | 福地茂夫 | 関口照枝 | 新井昌也 | 並木智雄 | 《99回生》 | 諸井真英 | 加藤富之 | 西片奈々 | 《106回生》 | 内藤貴志 | 三浦豊 | 櫻田忍 |
| 佐藤浩司 | 石川克行 | 新井昌也 | 並木智雄 | 石川友喜 | 《105回生》 | 小林稔 | 板橋孝幸 | 西片奈々 | 《106回生》 | 内藤貴志 | 三浦豊 | 櫻田忍 |
| 淵野昌弘 | 大月淳一 | 柿沼武夫 | 金子政弘 | 松本毅 | 《105回生》 | 小林稔 | 板橋孝幸 | 西片奈々 | 《106回生》 | 内藤貴志 | 三浦豊 | 櫻田忍 |
| 飯田智之 | 小野田誠 | 小嶋素志 | 梅澤義一 | 佐藤潤 | 《106回生》 | 内藤貴志 | 三浦豊 | 櫻田忍 | 《116回生》 | 大久保聡司 | 野本洗一 | 野本洗一 |
| 石橋淳 | 川辺隆浩 | 佐藤安弘 | 金子功 | 堀口真史 | 《97回生》 | 市川敏行 | 大野佐千代 | 岡田則子 | 野本晃史 | 橋本祐志 | 小菅敬子 | 金子林太郎 |
| 遠藤陽一 | 酒巻裕之 | 金子功 | 堀口真史 | 矢島浩二 | 《97回生》 | 市川敏行 | 大野佐千代 | 岡田則子 | 野本晃史 | 橋本祐志 | 小菅敬子 | 金子林太郎 |
| 岡田和久 | 辻本一成 | 野原正昭 | 蓮実忠夫 | 宮崎明 | 《95回生》 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 関口義則 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 |
| 木村力 | 蓮実忠夫 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 甲山浩 | 蓮実忠夫 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 染谷峰雄 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 直江啓市 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 萩原由浩 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 福澤理 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 赤坂由美 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 三枝和美 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 八木雅子 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 佐藤富江 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 隅田薫 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 落合章子 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 木村知代 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 本多正直 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 大森昌子 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 鎌田時江 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 川島由宣代 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 金子幸江 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |
| 菊地敦子 | 宮崎明 | 山下和宏 | 飯島勝美 | 小熊孝 | 《93回生》 | 古澤伸枝 | 飯塚一也 | 諏訪文晴 | 大橋一志 | 鎌田教男 | 齊藤貢一 | 荻原章 |

ありがとうございます。
 今後も引き続きよろしくお願ひします。



令和元年度学友会活動 会務・会計報告

（令和元年11月1日～令和2年10月31日）

- 令和元年 11月12日(水) 総会準備役員会
11月23日(出) 学友会総会(本校不動岡ホール・記念館)
11月30日(出) 1・2回生同窓会 本校記念館にて 68名出席
12月3日(火) 第1回役員会(総会の総括)
学友会活動助成金贈呈(陸上部総部100周年記念誌発行・第10回ガラコンサート記念公演)
令和2年 1月15日(水) 第2回役員会(総会の改善点、ホームページ、名簿管理、皆勤賞記念品検討等)
2月4日(火) 第3回役員会(事務局長後任検討、古希の祝い、慶祝者候補等)
2月5日(水) 第1・3・2回卒業生入会金受領(363名)
3月10日(火) 第4回役員会(生徒芸術鑑賞会支援・事務局長後任検討、備品購入等)
3月13日(金) 第1・3・2回卒業生 学友会入会363名(男142名・女221名)
3月14日(土) 卒業生3ヶ年皆勤者に記念品贈呈
4月6日(月) 第1・3・2回卒業式 新型コロナウイルス感染拡大防止のため参列なし
4月7日(火) 第5回役員会 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
5月28日(木) 第6回役員会 新型コロナウイルス感染拡大防止のためWEB会議
6月16日(火) (学友会だよりの構想、学校行事変更の確認、文化祭学友会として不参加決定、総会開催予定・講演者 船川喜正氏、古希祝い案内6月に発送、等)
7月14日(火) 第7回役員会(慶祝者の推薦、学友会だよりの内容検討、美術展の後援申請等)
8月4日(火) 第8回役員会(総会中止を決定、慶祝者は学友会だよりに掲載古希祝い中止の案内発送、学友会だよりの内容検討、美術展の後援決定、会費納入状況確認等)
9月2日(水) 第9回役員会 新型コロナウイルス感染拡大防止のためWEB会議
10月1日(木) (慶祝者への連絡、学友会だよりの内容検討等)
10月7日(水) 第10回役員会
10月22日(木) 学友会だよりの校正、WEBによる総会資料公開の検討、総会資料作成に向けての仕事分担)
10月22日(木) 第11回役員会(学友会だよりの配布について、総会資料作成に向けての仕事分担)
10月22日(木) 第2回不動岡高等学校卒業生による美術展後援
※本年度を通して不動岡高等学校の国際交流事業を支援しております。
※本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため同窓会は11月の1回の実施でした。

令和元年度 学友会環境整備会計決算報告書
(令和元年11月1日～令和2年10月31日まで)
収入総額 8,680,604 円
支出総額 6,449,724 円
残 額 2,230,880 円
収入の部 科目 予算額 決算額 差引増減額 摘要
支出の部 科目 予算額 決算額 差引残額 摘要

令和元年度 学友会会計決算報告書
(令和元年11月1日～令和2年10月31日まで)
収入総額 16,611,339 円
支出総額 10,092,901 円
残 額 6,518,438 円
収入の部 科目 予算額 決算額 比較増減 摘要
支出の部 科目 予算額 決算額 差引残額 摘要

※令和2年11月23日総会にて承認されました。

学友会年会費納入のお願い

学友会事業は、学友会会員の皆様が入る会費によりまかなわれています。会員の皆様からお願いした会費は、学友会だよりの印刷・発送、学友の集い開催費用等に充てるほか、校内の環境整備の資金の一部として在校生のためにも役立てています。学友会ではこうした活動を充実させるため、平成25年度総会において会則の一部改正により『年会費1,000円』を明確にしました。さらにコンビニでも支払えるようになりましたのでご利用下さい。今後とも会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

訃報

(56回生) 永沢計司、(62回生) 齊藤五郎、(63回生) 小林稔、(64回生) 小堀和雄、(65回生) 本郷英一、池上よし多、(66回生) 入江常夫、寺沢文也、(67回生) 齋藤讓、(71回生) 掘越大能、(72回生) 小嶋昭太郎、(75回生) 上原剛明、(76回生) 庄子郁夫、(78回生) 石井義高、(80回生) 中村明(81回生) 江原照夫、宇田川行雄、平沢恒男、(82回生) 野本辰江、富沢恒夫、杉田博文、(91回生) 田辺功、坂井国悦、(92回生) 大木真澄美、小林仁美、金子卓司 (敬称略)

令和2年11月から令和3年8月までの間に学友会事務局にご連絡いただいた皆様です。ご冥福をお祈り申し上げます。

令和3年度 学友会学校幹事紹介(回生順)

- 遠井 敦 (94回生) 関口恭子 (96回生)
◎大熊俊之 (110回生) 藤崎雄太 (117回生)
大澤寛之 (123回生)
任期・令和3年4月～令和4年3月
◎は代表幹事



頑張る不高生！

今年も生徒たちは新型コロナウイルスの関係で、さまざまな場面で自粛を余儀なくされています。学校祭も父兄や他校の生徒一般の方々の招待せずに開催することとなりました。

生徒たちは学校祭実行委員会を中心に、校長先生や生徒会担当の先生方と打ち合わせを重ね、自分たちで判断し、一般公開なしの開催を判断したようです。実行委員長は「このような状況なので今できる最良の方法で前向きに文化祭準備に取り組んでいきたい」また、「今のコロナ禍でしかできない私たちがなりの思い出を作りたいと思ってる」そして「一人ひとりが感染症対策をしっかりして日程通りに行えるよう協力をお願いします。」と「ぼぶら」の紙面で呼びかけています。

今年の学校祭のテーマは「『黎明』」刻め新時代の1ページ」というものでした。「黎明」という言葉には夜が明け、暗いところからの復活のような意味がある」ということで少しでも明るい方向の文化祭ができるようにとの思いからテーマを決めたそうです。当日の取材はできませんでしたが、生徒たちにとって、オンリーワンの思い出が作れたと思います。

さて、今回の部活動報告は7月19日終業式に部活動における活躍で表彰された成績を掲載しました。オリンピック、パラリンピックも同様ですが、コロナ禍の中で選手が精一杯自分の力を出した結果です。

緊急事態宣言下の今、部活動は、一日2時間、週4日迄、合宿は中止、県外への遠征もできない状況となっています。その中でも生徒たちは自ら考え、行動しています。私たちも、感染症対策をしっかりし、新型コロナウイルスに負けず、前向きに毎日を過ごしたいですね。

部活動報告

運動部

●陸上競技部

令和3年度学校総合体育大会埼玉県予選

男子400mH 5位 日下部功弥

女子800m 8位 大橋 雪奈

女子円盤投 7位 原田 美恵

女子5000mW 6位 金谷 咲奈

女子棒高跳 1位 関口 彩貴

女子4×400mR 8位 小山 優香

八巻 実優

大塚 彩南

町井 佳純

関口 彩貴

女子棒高跳 4位

埼玉県陸上競技選手権大会

男子400mH 8位 日下部功弥

女子走高跳 5位 町田瑠璃華

女子棒高跳 2位 関口 彩貴

男子バドミントン部

関東高校選手権大会バドミントン東部地区大会 団体戦 準優勝 濱田 隼弥

団体戦 準優勝 鈴木 秀都

全国高校総体予選個人戦東部地区大会

ダブルス 優勝 濱田 隼弥

清野 徹平

女子バドミントン部

関東高校選手権大会バドミントン埼玉県

県予選 団体戦 5位 竹内 七彩

全国高校総体予選団体戦埼玉県大会

団体戦 5位 竹内 七彩

全国高校総体予選個人戦東部地区大会

ダブルス 3位 岩渕 真愛

関根 春佳

●水泳部

令和3年度学校総合体育大会埼玉県予選

女子200m個人メドレー 松原 聖奈

文化部

●放送部 全国高校放送コンテスト埼玉県予選 研究発表部門・入賞 塩沢 悠斗

●書道科・書道部

第59回埼玉県硬筆中央展覧会

埼玉県書道教育連盟賞(5席)

青木陽菜里

菅谷 美月

村田 花梨

沼澤めぐみ

金子 夏希

大野真奈美

小林 彩音

新保 優尋

糸川 航己

落合 志帆

優良賞

軽音楽同好会

第6回埼玉県高等学校軽音楽

ルーキーズフェス

優良賞 Allstromeeria

(アエストロメリア) 小林 咲絢

第7回埼玉県高等学校軽音楽

ルーキーズフェス

優良賞 Bright Night

(ブライトナイト) 新島 明梨

新教職員

校内人事

氏名	職名・教科	前任校(前勤務先)	回生
豊田 清明	校長	県立学校人事課	
岡安 聰	教頭	大学入試センター	103
野本 泰孝	教諭・英語	羽生高校(定)	
矢野真理佳	教諭・英語	鷺宮高校	
清水 良平	教諭・保体	さいたま桜高等学校園	
遠藤 直樹	教諭・国語		
岡戸 恒	教諭・理科	進修館高校(再任用)	
富樫 毅	教諭・国語	岩槻北稜高校(再任用)	
高荷 裕夫	教諭・国語	松山女子高校(再任用)	
小山 崇江	教諭・国語	桶川西高校(再任用)	
小林 寿	教諭・保体	栗橋北彩高校	
渡邊浩一郎	教諭・数学	浦和高校	
鈴木 薫	教諭・書道	宮代高校(臨任)	
田村 彩香	教諭・英語		
河村 凌也	主事	浦和商業高校	

転出・退職者

氏名	職名・教科	転出先	回生
島村 圭一	校長	大宮光陵高校(再任用)	
遠藤 宏之	教頭	久喜北陽高校	
栗田 一明	教諭・書道		91
淵上 篤	教諭・保体	大宮光陵高校(再任用)	
松本 直樹	教諭・国語	総合教育センター	
山本麻由子	教諭・国語	久喜工業高校	
田村 寧子	教諭・英語	鴻巣高校	122
小堀 至	教諭・国語		
小堀 泰代	教諭・体育		86
納見 有子	教諭・理科	深谷高校(再任用)	
白石 秀明	教諭・体育		88
藤城 友昭	教諭・英語	市立浦和高校(臨任)	
加藤 佑紀	教諭・家庭	春日部高校(臨任)	
南 幸代	主任	久喜工業高校	



令和3年
進路実績
国公立大学106名合格 (現役94名)
難関私立大学
 早稲田大学17名・慶応大学7名・上智大学21名・東京理科大学37名
 明治大学・青山大学・立教大学・中央大学・法政大学・学習院大学268名

過去3年間の合格者数 (のべ人数)

国公立大学

大学名 (国立)	2019		2020		2021	
	計	現	計	現	計	現
北海道大	2	1	5	5	3	2
北教大旭川校	0	0	0	0	1	1
東北大	6	3	7	6	2	1
秋田大	1	1	0	0	1	0
福島大	0	0	6	6	1	1
茨城大	2	1	3	2	2	2
筑波大	4	3	7	6	4	4
宇都宮大	5	5	8	6	14	13
群馬大	5	3	5	3	4	4
埼玉大	26	22	20	19	19	19
千葉大	2	2	5	3	5	3
お茶の水女子大	1	1	1	1	1	1
電気通信大	2	2	0	0	3	3
東京大	0	0	0	0	1	0
東京外大	2	2	2	2	1	1
東京学芸大	7	5	3	3	5	5
東京工業大	0	0	0	0	1	0
金沢大	2	0	2	1	1	1
信州大	2	1	3	3	7	5
京都大	0	0	0	0	1	1
大阪大	0	0	0	0	1	1
神戸大	0	0	0	0	1	1
広島大	0	0	0	0	1	1
高知大	0	0	0	0	1	1

大学名 (公立)	2019		2020		2021	
	計	現	計	現	計	現
国際教養大	0	0	0	0	2	2
福島県立医大	0	0	1	0	2	0
前橋工科大	0	0	1	1	1	1
高崎経大	3	1	6	5	6	6
埼玉県立大	5	5	8	8	6	6
東京都立大	6	5	4	3	4	4
横浜市立大	0	0	2	2	2	2
長野県立大	1	1	0	0	1	1
山口東京理科大	0	0	0	0	1	1

私立大学

大学名 (私立)	2019		2020		2021	
	計	現	計	現	計	現
自治医大	2	1	3	3	4	4
獨協医大	0	0	3	3	3	3
埼玉医大	1	1	1	1	2	2

大学名 (私立)	2019		2020		2021	
	計	現	計	現	計	現
城西大	10	10	4	3	12	12
東京国際大	0	0	4	4	4	3
獨協大	44	38	48	42	51	47
文教大	28	27	22	19	31	31
日本薬大	2	1	5	5	5	5
青山学院大	15	11	13	13	28	26
学習院大	25	14	21	16	16	15
学習院女子大	3	3	6	5	2	2
北里大	10	9	8	7	4	4
共立女子大	12	12	16	16	10	9
慶応大	3	1	2	1	7	4
国際基督教大	0	0	0	0	2	2
駒澤大	14	11	26	19	16	15
芝浦工大	55	43	42	35	71	67
順天堂大	3	2	18	18	9	9
上智大	2	2	10	7	21	19
昭和女子大	24	23	18	17	35	35
成蹊大	9	8	21	20	30	29
成城大	21	16	22	21	20	20
専修大	6	3	19	15	23	21
大東文化大	11	8	28	23	51	51
中央大	35	25	34	25	42	36
津田塾大	9	8	9	8	7	6
帝京大	9	6	16	15	22	22
東海大	12	8	12	10	7	7
東京家政大	16	16	25	25	21	21
東京女子大	7	7	9	9	12	11
東京電機大	37	31	24	18	26	25
東京農大	17	14	24	22	15	15
東京薬大	1	1	2	0	2	2
東京理大	21	13	19	15	37	28
東洋大	151	126	139	127	182	165
日本大	36	26	62	50	42	35
日本女子大	21	19	16	16	29	26
法政大	57	43	43	35	68	60
星薬大	0	0	0	0	4	4
武蔵大	19	16	7	6	23	22
東京都市大	6	6	6	1	3	3
武蔵野美大	1	0	6	6	3	2
明治大	34	22	60	44	46	41
明治学院大	6	5	18	15	17	14
明治薬大	8	7	5	5	7	7
立教大	51	47	60	50	68	65
早稲田大	11	8	32	23	17	16
同志社大	5	0	3	2	1	0
留学	1	1	3	3	2	2

「編集後記」

普段は京都にいらつしやる布施さんがたまに帰郷されていたり、腰塚さんがご自坊で個展の最中だったり、今回のインタビューは本当に幸運に恵まれました。また野本さんから、妹さんが世界の巨匠パヴァロッティと共演した時の写真を見せていただいたときは、その迫力に心から感動しました。

無い知恵を絞りながら三人でこの学友会だよりを編集しているうち、部活をしていた頃の遠い昔の楽しさが甦りました。

(松永88回生、赤坂92回生、松本98回生)

今春の入試状況について

進路指導主事 橋本 雅文

3か月に及ぶ休校、短縮された夏休み…。コロナ禍という未曾有の状況下で受験に臨んだ今春の不動岡生(133回生&既卒生)は、本当によく耐え、実力を発揮してくれました。

新規導入の「共通テスト」等、入試自体においても不安要素がある中、出願に関しては初志貫徹した不動岡生が目立ちました。国公立大に106(現役94)名が合格し、国立難関10大学にも10名が合格、医学科へも1名が合格しました。関東圏外の国公立大への出願も定着し、今春は27名が合格しています。

私立大は、最難関の早慶上理ICUに84(現役69)名、本校のポリシームゾーンであるGMARCHには268(現役243)名が合格し、定数絞り込みが厳しかった4~5年前に比べ、合格者数はほぼ倍増しています。

近年、大学入試は激変しており、国公立、私立を問わず、難関大ほど教科横断型の総合的な学力を問う傾向が顕著です。不動岡生は流行や甘言に惑わされず、全ての授業、部活動、学校行事に全力投球しましょう。地道な努力を重ねることが受験勉強の王道です。

学友会ホームページ
<http://gakuyu.fudooka-h.ed.jp>

メール配信サービス

学友会では学友の皆様と親交を深めるために、メールによる情報配信サービスを始めました。右記QRコードで是非ご登録下さい。

